

特定非営利活動法人 地域の未来・志援センター

2013年度（2013年6月～2014年5月） 事業報告書

特定非営利活動法人地域の未来・志援センターの2013年度事業について、下記の項目の順に報告させていただきます。

1. 事業方針と事業体系
2. 運営体制
3. 会員
4. 事業スケジュール実績
5. 各プロジェクト実施報告
6. 各プロジェクトの計画と実績比較

1. 事業方針と事業体系

- ・社会の現状を定量的に把握した上で、環境・持続可能性の問題を深部から捉え直し、内外へ発信・共有していく。
- ・中部地域における中間支援組織の機能を見直し、「情報受発信、コーディネート、コンサルティング、人材育成、統一テーマ活動、調査研究、政策提言」について新たに支援の枠組みを提示する。
- ・地域の各主体の信頼をベースとしたつながりが、地域の持続可能性にとって重要であるとの認識から、様々なレベルでの「つながり」を生み出す取り組みを開始する。

持続可能な社会に向けた総合的な地域デザイン

事業名

プロジェクト名

1. 地域デザイン実証事業

「Do-ing Tank」としての事業プロセスを通して、持続可能な『地域の未来』を描く私信となる新しい時代の価値観を創造していく

1-1 豊森プロジェクト

1-2 根本問題探求事業

2. 地域の持続可能センター構築事業

中部地域の持続可能性の向上に向けた取り組みを行う市民活動団体等に対して、不足している資源のマッチング及びコーディネートを行う

2-1 環境中間支援会議・中部への地ならし

2-2 環境市民活動団体プレゼン大会の実施

2-3 地域の環境NPO調査事業

2-4 地域資源マッチング事業

2-4-① 助成金セミナーの開催

2-4-② 損保ジャパンCSOラーニング生受入

2-4-③ 三重大学環境NPOインターン生受入

2-4-④ 地域資源情報の発信

2-5 情報交流会の開催

2. 運営体制

①役員

役職	氏名	活動中心 地域	所属等
理事長	萩原喜之	愛知県	NPO 法人中部リサイクル運動市民の会／顧問（元代表） NPO 法人エコデザイン市民社会フォーラム／代表
副理事長	駒宮博男	岐阜県	NPO 法人ぎふNPOセンター／理事長 NPO 法人地球の未来／理事長 NPO 法人地域再生機構／理事長
理事	井下龍司		一般財団法人セブン-イレブン記念財団／理事・事務局長
理事	柴垣民雄	愛知県	
理事	新海洋子	愛知県	環境省中部環境パートナーシップオフィス／ チーフプロデューサー
理事	竹内ゆみ子	岐阜県	認定 NPO 法人ソムニード／専務理事
理事	中川恵子	愛知県	NPO 法人中部リサイクル運動市民の会／顧問 グリーンマップあいち
監事	鳥居翼	愛知県	鳥居翼税理士事務所、NPO 法人なかまの家／監事 NPO 法人地球再生機構／監事

②事務局

スタッフ	三ツ松由有子	愛知県名古屋市在住【2013年9月～】
スタッフ	鈴木祐之	愛知県名古屋市在住【～2012年9月末、2013年5月より復帰】
スタッフ	矢澤由紀子	愛知県新城市在住【2012年9月～】
スタッフ	山下千尋	岐阜県瑞浪市在住【2012年9月～】

③地域デザイン実証事業プロジェクトスタッフ（専従でない）

プロジェクトスタッフ	安藤俊人	【2009年4月～】
プロジェクトスタッフ	志津晴巳	【2013年4月～】
プロジェクトスタッフ	萩原桜子	【2014年4月～】
プロジェクトスタッフ	武藤知子	【2013年4月～2014年3月】

④退職

スタッフ	植田恵美	（事務局スタッフ）【2013年8月付】
------	------	---------------------

3. 会員

①会員数推移

年度	会員数・会員団体数	会員内訳（年会費）		
		正会員 (5千円)	賛助会員 (2千円)	NPO パートナー会員 (1千円)
第1期 2005年	15名・0団体	15名	0名	0団体
第2期 2005年	16名・1団体	15名	1名	0団体
第3期 2006年	19名・3団体	17名	2名	3団体
第4期 2007年	41名・5団体	26名	15名	5団体
第5期 2008年	40名・10団体	26名	14名	10団体
第6期 2009年	40名・11団体	31名	9名	11団体
第7期 2010年	43名・11団体	35名	8名	11団体
第8期 2011年	56名・15団体	36名	20名	15団体
第9期 2012年	27名・5団体	18名	9名	5団体
第10期 2013年 (目標)	26名・7団体 (40名・10団体)	17名 (27名)	9名 (13名)	7団体 (10団体)

②NPO パートナー会員団体名称

愛知県活動団体 : 渥美半島ハイキングクラブ／エコデザイン市民社会フォーラム
セカンドハーベスト名古屋／中部リサイクル運動市民の会

岐阜県活動団体 : 山県市災害ボランティア・サポートセンター

三重県活動団体 : ボランティアセンター・ラブリーフォレスト／NPO 法人生ごみリサイクル思考の会

太字は新規会員

③会員推移について

2012年度から2013年度にかけて、正会員は3名が入会し、合計17名、目標として掲げている27名には10名不足する結果となった。賛助会員は変わらず9名で、NPO パートナー会員は2団体が入会し7団体となった。

4. 事業スケジュール実績

	1-1 地域デザイン 実証事業 (豊森プロジェクト)	1-2 根本問題 探究事業	2-1 環境中間支援 会議・中部への 地ならし	2-2 環境市民活動 団体プレゼン 大会の実施	2-3 地域の環境 NPO調査 事業	2-4-① 助成金 セミナー
2013年 6月			なごや環境大学 主催イベントの 開催協力要請	なごや環境大学主催 イベントの開催協力 6月29日(土)		企画検討
7月			連携候補との 会合			広報開始 (19日) 参加者募集
8月						
9月			関係機関へ ヒアリング			開催準備
10月	(通年実施) 第三期 定期講座 受講生24名				・事業所へ の訪問 ・ヒアリング の実施 ・団体情報 の発信	10月19日(土) 実施
11月						
12月			EPO中部訪問			
2014年 1月						
2月			EPOC訪問 ↓		ヒアリング内容に 基づき、情報交 流会企画の立案	
3月			なごや環境大学 事務局メンバー との懇親会	共催団体との 次年度企画 検討会		
4月	募集開始 第四期	4月6日(日) 公開講座			ヒアリングの 実施	
5月						

	2-4-② 損保ジャパン CSOラーニング 制度インターン	2-4-③ 三重大学 環境NPO インターン	2-4-4 地域資源 情報の発信	2-5 情報交流会	事務局
2013年 6月					第1回理事会
7月			助成金 情報等 の発信 (ML月2 回、HP 月1回)		
8月		2名 80時間 受入れ			第9回通常総会 第2回理事会、事業報告
9月				企画検討	第3回理事会
10月	3名 150時間 受入れ			開催地・ ゲスト決定	
11月			FBページ 作成	広報開始 参加者募集	第4回理事会
12月					合同会議
2014年 1月			通年	開催準備	第5回理事会 地球環境基金説明会
2月				2月22日(土) 実施	
3月			ML、FB での会員 やつなが りの出来 たNPO の広報 支援		第6回理事会
4月				コラボの フォロー	
5月					第7回理事会

5. 各プロジェクト実施報告

1. 地域デザイン実証事業

1-1 豊森プロジェクト

【目的】

これからの働き方や生き方に悩んでいる人、田舎へのI・Uターンを考えている人、また都市に住みながら農山村とのつながりの中で生きていきたい人などを対象に、公募で塾生を募り、農山村地域の暮らしや自然に触れながら、これからの生き方や社会のあり方を模索し、実践、行動につなげていく人材を育成。人と自然、人と地域の関係を見直し、新たな価値を創出する「豊森モデル」を構築することを目指す。

【実施内容】

第三期「豊森なりわい塾」を24名の塾生を対象に実施。フィールドとして敷島自治区の杉本と築羽自治区の伊熊、惣田で地元学や聞き書きなど、集落の住民の協力を得ながらカリキュラムを実施。6月から毎月1回、第三土日の2日間の講座を実施。

【費用】	収入	：	合計	20,798,860円	
	(見込み)		※内訳	20,239,000円	トヨタ自動車より受託金
				559,860円	講座参加費収入等
	支出	：	合計	20,455,747円	
			※内訳	6,137,970円	プロジェクトスタッフ人件費
				8,125,320円	外注費
				3,436,079円	交通費
				2,756,378円	その他

【成果】

今回は第三期ということで、一期、二期の経験を踏まえてカリキュラムの軸が確立されてきた感がある。活動フィールドとして今回、新たに築羽自治区に協力をお願いすることになった。新しく地域が広がったことで、運営サイドとしては、新たな地域に入って協力を得ていく作法を経験することができた。また塾生にとっては、これまでの2年間から1年の受講期間になったことで、中だるみもなく、高い出席率を最後まで維持し、塾生間の交流もこれまでになく深まり、次へのステップへの広がりを見せている。今期初めて、何名かのトヨタ社員が塾生として参加したことも、今後の塾生対象を考える上でおおいに参考になった。

【今後の方向性】

三期募集は、I・Uターンを前に出して実施したが、情報が行き渡らず、I・Uターン志望者の応募は

数名に留まった。次年度の四期募集については、都市部にも情報が届くよう広範囲に募集をかけることに努めた。また豊森なりわい塾の活動内容を広く知ってもらい、応募につなげるために著名なゲスト講師を招いて名古屋市内で公開講座を実施した。トヨタ社員だけでなく豊田市職員の参加も促す。

豊田市で立ち上がった、都市と農山村交流をサポートするおいでん・さんそんセンターとも連動していく。

【事業の様子】



車座トークセッション



フィールドワークの様子

1-2 根本問題探求事業

【目的】

1-1 地域デザイン実証事業（豊森プロジェクト）で団体として発見・創造・体得される『新しい価値・視座』を地域の未来・志援センターの地域デザインの根本として成文化・可視化し、内外に発信していくことができる形にすること。

【実施内容・成果】

2014年4月 勉強会を予定していたが、豊森の公開講座で、「これからの社会のカタチ」～シアワセをどこに求めるのか、と題して哲学者の内山節氏と半農半X研究所代表の塩見直紀氏を招いて、講演及び意見交換をした。これを根本問題探求事業の一環としても位置づけ成果とする。

【費用】

なし

2. 地域の持続可能性センター構築事業

2-1 環境中間支援会議・中部への地ならし

【目的】

北海道の事例をもとに、中部地域における提言機関「環境中間支援会議・中部」設立の可能性を模索する。その前段として、当法人が中部地域の環境中間支援組織関係者に対してヒアリングを行い、環境中間支援会議・中部の設立へ向けた緩やかなネットワークを構築することを目的とする。

【実施内容・成果】

本年度は、連携のコアとなる予定のなごや環境大学との協議を優先的に行なった。なごや環境大学のコアメンバーと、当法人の今後の方向性を共有し、また、なごや環境大学が中心的事業として位置づけている「プレゼン大会」を、地域の中間支援組織の連携のためのツールとすべく、協働の事業にしていくことを確認できた。

なお、本年度の予定としていた中間支援組織へのヒアリングは、2013年12月にEPO中部へ、2014年2月に環境パートナーシップ・CLUB（EPOC）を訪問し、意見交換を行った。その後、2月22日に開催した情報交流会の中で、本プロジェクトが目指す一つの形である4+αの取り組みを行う認定NPO法人北海道市民環境ネットワーク常務理事宮本尚氏を囲み、環境省中部地方環境事務所、EPO中部、なごや環境大学等と中間支援組織間でのコラボレーションの可能性について検討を行った。

【費用】

なし

2-2 環境市民活動団体プレゼン大会の実施

【目的】

NPO等環境市民活動団体が地域課題やその解決のために行っている事業、団体が抱える課題などといった情報を発信・共有することのできる場を設けることで、ともすると孤立しがちな市民活動団体の地域間・セクター間でのつながり及び創発の機会を創出することを目的とする。

【実施内容】

開催名称：「～名古屋を変える！経験交流と本音トーク～環境活動交流ワークショップ」

日時：2013年6月29日（土）13:30-16:30

場所：名古屋文化短期大学

主催：なごや環境大学実行委員会

後援：環境パートナーシップ・CLUB（EPOC）、なごや生物多様性保全活動協議会

協力：環境省中部環境パートナーシップオフィス、NPO法人 地域の未来・志援センター

【今後の方向性】

本年度は協力団体という位置づけで、イベント当日の補助を行い、事務局レベルでの交流を果たした。

なごや環境大学では来年度を「プレゼン大会」の完成年度とおいているため、共催は来年度とすることとし、企画段階からともに検討を行っていく方針である。

【費用】

なし

2-3 地域の環境NPO調査事業

【目的】

訪問ヒアリング調査という形で、市民活動団体の声や現場を見聞きすることで、彼らにどんな支援を行うことで地域の持続可能性が向上するのかを検討するとともに、当法人との間のつながりを作り出すことを目的とする。また、調査によって得られた支援ニーズ等を助成金セミナーや情報交流会の参加者アップと企画充実のために活用する。

【実施内容】

中部地域の市民活動団体 21 団体の活動現場を訪問し、活動に関する話を伺う中で、地域内外の組織等とのつながりの状況や課題、支援ニーズ等を聞き出していった。また、了承いただけた 18 団体については、当法人 HP での活動紹介（「NPO ほうもんき」）を行い、活動の広報支援を行った。

【成果】

訪問ヒアリング件数 50 件を目標としていたが、他の事業との兼ね合いや、スタッフの業務引き継ぎなどに時間を割かれ、21 団体を訪問ヒアリングするに留まった。

目的としている当法人とのつながりづくりに関しては、1 団体がパートナー会員になった他、2 団体から個別相談を受ける、4 団体が情報交流会の協力要請を受け入れてくれるなど、緩やかな関係づくりへとつながられている。

【訪問した団体】

- 【01】 山崎川グリーンマップ (4/23)
- 【02】 生ごみリサイクル思考の会 (4/25)
- 【03】 恵那山みどりの会 (5/14)
- 【04】 額田バイオマス火力発電所建設検討会 (6/3)
- 【05】 レスキュー・ストックヤード (6/24)
- 【06】 森林真剣隊 (7/4)
- 【07】 いびがわみずみずエコステーション (9/11)
- 【08】 セカンドハーベスト名古屋 (9/26)

- 【09】 みのかもグリーンネット (10/9)
- 【10】 とよた自然わくわくクラブ (10/12)
- 【11】 三重大学サークル・かめっぷり (10/22)
- 【12】 ボランティアセンター・ラブリーフォレスト (11/15)
- 【13】 表浜ネットワーク (11/18)
- 【14】 みの国民参加の森林づくりをすすめる会 (11/28)
- 【15】 キッズアカデミーせき園 (12/10)
- 【16】 海の自然史研究所 (12/13)
- 【17】 里山クラブ可児 (1/15)
- 【18】 名古屋都市センター (1/22)
- 【19】 パートナーシップ・サポートセンター (4/9)
- 【20】 守山リス研究会 (4/12)
- 【21】 渥美半島ハイキングクラブ (4/13)

【費用】

収入 : 合計 0 円
支出 : 合計 41,350 円 (旅費交通費、会議費等)

2-4 地域マッチング事業

① 助成金セミナーの開催

【目的】

環境市民活動団体に助成制度を知ってもらい、助成制度の趣旨を理解し、活用できるところは活用して、地域の活動に役立ててもらおう。また、みどりの基金、地球環境基金がともに 20 年を迎えるにあたり、助成団体の大きな節目・変化に言及すると同時に、近年新たな助成の形として注目されている「コミュニティファンド」や「プロボノ」といった助成制度についても紹介し、市民活動団体が活動を継続していくための助成制度のあり方について、市民活動団体・助成団体・支援組織の3者がともに考える機会を提供する。

【実施内容】

開催名称：環境市民活動助成金セミナー

日時：2013年10月19日(土) 14:00-18:00

場所：つながれっとNAGOYA 特別セミナールーム

主催/後援

主催：一般財団法人セブン-イレブン記念財団/NPO法人地域の未来・志援センター

後援：愛知県/名古屋市

発表者、パネリスト、主催者・スタッフ数 合計 13名

参加者数 34名 (目標数：50名)

【費用】

収入 : 合計 216,000 円
※内訳 200,000 円 セブン-イレブン記念財団より開催助成金
16,000 円 参加費収入
支出 : 合計 210,497 円 旅費交通費・会場費等
(助成対象経費余剰金 2,243 円返金)

【成果】 参加者数 目標数 50 名 → 実績 34 名

アンケートによると、助成金機関への理解が深まったとの回答は**100%**であった。その理由は、今回のセミナーで、あいちコミュニティ財団、中部プロボノセンターという地域発の新たな助成の形を提示する団体を紹介することで、助成機関の多様性の提示を通じて各機関の特徴・違いを浮かび上がらせる仕掛けを行ったことによると思われる。

また、従来のセミナーではあまり聞かれなかった、自主財源獲得のために広報活動やプレゼンテーション能力向上の大切さを学んだ等のコメントが多く聞かれ、助成機関からどうやってお金を獲得するか、という視点ではなく、助成機関と協力してどうやって自団体の活動を自立させていくか、という点にまで参加者の視野が広がったことは大きな成果であった。

【今後の対応・改善点】

参加者数が目標に達しなかった一因として、広報の不十分さがあげられる。今後は、開催 2 か月前の告知だけでなく、**FB** や **ML** を使って定期的アナウンスをしていくことで対応していく。

『社会のニーズに対応した助成制度のあり方を探る』という、より大きな目的に向かって一步を踏み出す会となったが、これをいかに次へつなげていくかというビジョンはまだ描けていない。助成団体と市民団体、そしてつなぎ役である当法人の協働による助成の在り方を探る活動をいかにつくりあげていくかを、現在実施中のNPOヒアリング調査活動などを通じて考えていきたい。

【開催風景】

会場全景



質疑応答



② 損保ジャパン CSO ラーニング生受入れ

【目的】

地域資源の一つとして大学生を位置づけ、環境活動を行うNPOへインターン生として9カ月間（150時間）研修する制度（損保ジャパンCSOラーニング制度）。当団体は、その受け皿となり、受入れ側としての意義や課題、大学生側の意義や課題を考える。

【実施内容】

3名の学生の受け入れを行い、最長150時間の有給（850円/h）及び単位認定のインターンシップを実施した。

期間：2013年6月～2014年2月（9カ月間）

インターン生：野田美里	愛知工業大学大学院 修士1年
山内康平	名城大学 農学部 3年
吉田翼	愛知淑徳大学 交流文化学部 3年

活動内容としては、中間支援組織としての役割を理解してもらうため、様々なNPOや市民環境団体の活動に参加し、その情報の発信を活動の中心とした。

- ・森林組合での作業体験
- ・豊森講座の運営スタッフ及び講座出席
- ・リサイクルショップイベントスタッフ
- ・ファシリテーション講座
- ・田んぼの会にて稲刈りボランティア
- ・関連団体主催の講座に参加他、様々な分野でのアクティビティに参加

【費用】

収入	：合計 350,000 円
	50,000 円 損保ジャパン環境財団（受入れ協賛金）
	300,000 円 （寄附金エコポイント）
支出	：合計 375,445 円
	266,300 円（ファシリテーション講座開催協賛金）
	109,145 円（旅費交通費、参加費等）

【成果】

年齢層が高くなりがちな環境団体で、若者の参加はリフレッシュにつながると、受入れ団体からも評価が高く、今後も是非続けて欲しいとの声がほとんどであった。学生も、多様なNPOや団体に触れることで、多くの刺激があり、参加する前とくらべて、関心テーマが広くかつ深まったとのこと。損保ジャパンの担当者からも、アクティビティへの参加率が高かったことなどから、充実したインターンぶりがうかがえると、高い評価をうけた。

【計画とのその相違・その原因】

毎年2名の受入れで、今年度も当初はそのつもりでいたが、面接時に3名の候補者があがり、三者三様のよさがあったため絞り切ることができず、3名受入れとなった。負担が増えたことは否めないが、個性が違う3人によって、逆によりチームができあがり、充実したインターンになった。

【今後の対応・改善点】

プログラム内容を変更したこともあり、思考錯誤の1年であったため、1ヶ月前にならないと、プログラムの予定が決まらない、という状態が、提供する側もされる側にもあった。来年度は夏休みに入る前に、100時間分のインターンスケジュールが確定している状態にしていきたい。

【事業の様子】



③ 三重大学環境NPOインターン生受入れ

【目的】

三重大学の環境 NPO インターン制度を通じて大学生を受け入れることで、NPO でインターン生を受け入れることの NPO 側の意義や課題、大学生側の意義や課題を考える。

【実施内容】

三重大学の学生2名の受け入れを行い、全80時間の研修活動を行った。

期間 : 2013年7月～2013年9月(80時間)

インターン生 : 藤澤 茉由 生物資源学部 1年

石森 仁博 生物資源学部 1年

研修活動内容 : ・森林組合での作業体験

- ・豊森講座の運営スタッフ及び講座出席
- ・リサイクルショップ運営スタッフ
- ・ファシリテーション講座
- ・総会オブザーバー参加

【費用】

収入 : 合計 50,112 円 (エコポイント寄付金)

支出 : 合計 50,112 円 講座開催費、旅費交通費等

【成果】

2人の志望理由は、豊森なりわい塾や様々なアクティビティに参加できる、ということだった。三重大学の担当者から、当法人に来た2人は優秀な学生で、その後も積極的に様々な活動に参加しているようで、損保のインターンシップの学生ともコミュニケーションをはかるなど、終了以降もつながりを持ち、体験したことが活かされていることが窺える。

1年生ということもあり、今後も当法人の活動に関わってもらうことで、環境市民活動とのつながりを強めていきたい。

【計画とのその相違・その原因】

特になし

【今後の対応・改善点】

2カ月強という短い時間で、個別のプログラムを個人の予定にあわせながら立てるのに苦労した。損保ジャパンと同様に、個々を様々な団体へ派遣するというのは、初めての試みであったため、なかなか次の予定が見えない、という事態や、アクティビティが連日重なってしまったことがあったので、次年度は最初の面談で、半分の予定は決められるように運んでいきたい。

④地域資源情報の発信

【目的】

助成金やプロボノ、物品提供などの情報をホームページ（HP）やメールリングリスト（ML）などを利用して市民活動団体へ発信することによって、地域の資源が地域の市民活動団体によって、地域の課題解決のために利用される、という地域内資源循環を促進させることを目的とする。

【実施内容】

- ・ HP での情報発信・・・20件
- ・ ML での情報発信
会員 ML（登録者 39名）・・・18件
愛知 NPO-ML（登録者 165名）・・・16件
岐阜 NPO-ML（登録者 64名）・・・16件
三重 NPO-ML（登録者 35名）・・・16件
- ・ FB での情報発信・・・31件

Facebook ページに対する「いいね！」数…260

全投稿記事に対する総「いいね！」数…268

全投稿記事に対する総閲覧（リーチ）数…2,158

- ・ 助成制度ガイドブック配布（50部）

【費用】

収入：なし

支出：なし

【成果】

HPは11月に『NPO ほうもんき』という新企画をアップロード。また、インターフェイスの使いづらさを改善するため、3月～4月にかけてトップページに『NPO ほうもんき』のコンテンツをつくり、市民活動団体の魅力の発信を行うことで、閲覧数及び、当法人とつながりたいと思う団体数の増加を図った。が、HP閲覧数は6747件と、2012年度の7553件を下回る結果となった。

MLでの情報発信は、月2回程度の頻度で発信する予定であったが、2014年2月末（情報交流会を終えるまで）まではイベントの前だけに発信が偏りがちで、2～3カ月間、何の発信もできない期間があった。その状況を改善するため、事務局で策定した情報発信計画に沿って、3月後半よりレギュラー月2回、情報が寄せられた場合は適宜、発信を行っている。

FBについても、情報交流会で試験的に情報発信を行い、会が終わった後、事務局全員で簡単な勉強会を実施。概ね月1回、事務局で発信する内容について打ち合わせを行い、担当・期限を明確にしてコンスタントな発信を行っている。また、コラボ続報（コラボ1ー中部リサイクル運動市民の会・セカンドハーベスト名古屋・レスキューストックヤードの協働拠点事業構想とコラボ5ー足助病院とヘルスケア関係の企業の協働）を適宜発信しているが、これらについては閲覧数が大きく伸びている。また、インターン生による拡散効果も確認できた（6月9日・総閲覧数816）。MLとの相乗効果として、会員やNPO訪問によってつながりのできた団体より広報依頼が発生している。

その他、中部地域の環境系市民団体が利用可能な助成金、NPO向け融資情報をまとめた「助成制度ガイドブック」を助成金セミナー開催に合わせて制作。助成金セミナーとNPO訪問に際して配布した。

【今後の改善点】

HPでの情報発信については、来年度に向けてなごや環境大学との共通構想である「地域資源マッチングシステム」の実現を検討。中部地域のNPOや市民活動、地域づくりを行う人々にとって有益なサイトとなるよう、なごや環境大学のインフラと当法人HPとの乗り入れも含めて再構築を目指すことで閲覧数の増加を図っていく。

また、情報交流会での広報活動にあたってFacebookページを開設した。その効果的な活用及びHPとの連携を研究し、より多くの市民団体に情報が届くようにしていく。

2-5 情報交流会の開催

【目的】

- ①地域の環境 NPO 調査事業を通じて把握できた各市民活動団体が抱えている課題を素材とした。
- ②異分野の他者と組む（コラボレーション）ことで、その課題解決と、活動の社会への広がりの可能性を示す。
- ③それぞれの NPO の活動が、社会の大きな変化に対応しているのかを探ってもらう機会とする。
- ④持続可能な社会（環境活動）の社会的基盤は、地域社会の人のつながりにあるのではないかというところを、この企画を通して考えてもらう機会としたい。
- ⑤以上を通して、この地域の間支援団体として、地域の NPO の課題と向き合うこととしたい。

【実施内容】

タイトル：「閉じて、開く！ コラボレーションの可能性」～深部から地域のつながりを探る～

日時：2014年2月22日（土） 13：30～17：00（懇親会：17：00～17：40）

場所：名古屋文化短期大学（名古屋市東区葵1-17-8）

共催：環境省中部環境パートナーシップオフィス、なごや環境大学

NPO 法人地域の未来・志援センター、一般財団法人セブーン-イレブン記念財団

協力：NPO 法人恵那山みどりの会、愛知厚生農業協同組合連合会足助病院、

NPO 法人セカンドハーベスト名古屋、NPO 法人中部リサイクル運動市民の会、

NPO 法人レスキューストックヤード、みの国民参加の森林づくりをすすめる会

後援：環境省中部地方中部環境事務所、愛知県、岐阜県、名古屋市

スタッフ：地域の未来・志援センター 鈴木祐之、矢澤由紀子、山下千尋、三ツ松由有子、
野田美里（損保インターン生）、吉田翼（損保インターン生）、山内康平（損保インターン生）

【費用】

収入：合計 420,000 円

※内訳 400,000 円 セブーン-イレブン記念財団より開催助成金

20,000 円 参加費収入

支出：合計 371,478 円 講師謝金、会場費、印刷製本費等

(助成対象経費余剰金 35,519 円返金)

【成果】

一般参加者 40 名 協力者 49 名 計 89 名 (目標 100 名)

〈各分科会の参加者数〉

分科会	参加者数
コラボ 1…一定の社会システムを確立した団体同士のコラボは可能か？	24 名
コラボ 2…自然豊かなフィールド×都市住民のニーズ	17 名
コラボ 3…若者の就労不安×人材不足の NPO	21 名
コラボ 4…同じテーマの中間支援組織同士の連携はできるのか？	16 名
コラボ 5…地域の課題×企業のソリューション力	18 名

〈協働案件成立件数 (協議中も含め)〉

1. コラボ 5- 足助病院 (研究会) と地域コミュニティづくり強化を進め、ICT による高齢者見守りシステムを提供するむすびグループとの協働事業開始
2. コラボ 5- 気象協会とこんにやくメーカーサン食品のタイアップ、協議中 (2014 年 5 月現在)
3. コラボ 1- 3 団体の協働物流センター構想実現に向け協議中 (2014 年 5 月現在)
4. コラボ 2- 自然体験イベントを企画運営する中山間地の団体と、都市部で旅行業を営む団体とが協働イベントを実施

アンケートによると、異分野や他団体とのつながりを求める声が多く、それを実現するための支援を求める要望が多く寄せられた。これらの意見・要望と、今後の NPO 訪問で浮かび上がる団体の課題に応える形で、当法人の支援業務を確立していきたい。

【開催風景】



基調報告



分科会の様子

●その他

「地球環境基金説明会」(NPO法人 ボランティアネイバーズからの依頼により共催)

計画にはなかったが、下記セミナーに理事長・萩原が企画・ゲストスピーカーとして、事務局3名が運営スタッフとして携わった。



【実施内容】

タイトル：

「モデルチェンジ・20周年記念 地球環境基金説明会」

日時：平成26年1月17日（金）

場所：ウィンクあいち 10階 1009会議室

申込み：32名（事前申し込み：27名、当日参加：5名）

説明者：2名（独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金部
地球環境基金課）

ゲスト：1名（特定非営利活動法人地域の未来・志援センター 代表理事 萩原喜之）

事務局：5名（特定非営利活動法人地域の未来・志援センター3名、特定非営利活動法人ボランティアネイバーズ 2名）

【当日スケジュール】

1. オリエンテーション（18：00～18：10）

2. 第1部「地球環境基金説明会」（18：10～18：50）

中田孝之氏（独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金部 地球環境基金課 課長代理）

3. 第2部「NEW!地球環境基金～何が変わり、どう使えるのか」

トークセッション（18：50～19：20）

萩原喜之（NPO法人地域の未来・志援センター 代表理事）×中田孝之氏

【費用】

収入：なし

支出：なし

6. 各プロジェクトの計画と実績比較

事業	計画（目標）と実績	
	計画	実績
<u>環境中間支援会議・中部への 地ならし</u>	中部地域の環境中間組織関係者に対してヒアリングを実施	EPO 中部、なごや環境大学、中部地方環境事務所と連携の可能性を模索。EPOC とは協議打診中
<u>環境市民活動団体プレゼン 大会の実施</u>	2013年6月 なごや環境大学主催「環境団体の交流ワークショップ」開催 2014年3月 共催団体との次年度企画の検討会議開催	2013年6月 なごや環境大学主催「環境団体の交流ワークショップ」実施 2014年3月 共催団体と次年度企画検討会議を兼ね、懇親会を実施。
<u>地域の環境 NPO 調査事業</u>	年間 48 件程度の訪問ヒアリングを実施	21 団体訪問
<u>助成金セミナーの開催</u>	セミナー参加者数 50 名	セミナー参加者数 32 名
<u>損保ジャパン CSO ラーニング 生の受入</u>	2 名受入（合計 150 時間）	3 名受入（合計 150 時間）
<u>三重大学環境 NPO インター ン生受入</u>	1～2 名受入（合計 80 時間）	2 名受入（合計 80 時間）
<u>地域資源情報の発信</u>	助成金等に関する情報を HP や ML を通じて月一回程度発信	<ul style="list-style-type: none"> ・HP で・・・20 件 ・ML での情報発信 会員 ML・・・18 件 愛知 NPO-ML・・・16 件 岐阜 NPO-ML・・・16 件 三重 NPO-ML・・・16 件 ・FB での情報発信・・・31 件 ・助成制度ガイドブック配布（50 部）
<u>情報交流会の開催</u>	参加者数 100 名	一般参加者 40 名 協力者 49 名 計 89 名